



## 『ビオトープの目的とルール』

ビオトープは・・・


 地域に昔から暮らす生きものたちに必要な条件が揃った"すみか"です★ また、やってきた生きものを通してビオトープや学校の周りがどんな"すみか"かを学べる環境学習施設です★

→自力でやってこられない植物以外、生きものをビオトープに入れるのは極力控えましょう！どうしても入りたい生きものがある場合、あらかじめ横浜市や専門家と相談してください。植物については、地元の水辺に生えている地域古来の植物を植えましょう！特に、ウシガエルやブラックバス、オオフサモ等、特定外来生物に指定されている外来生物は法律で飼育や移動運搬が規制されています。


もしすでに入ってしまった場合、横浜市や専門家に相談し、適正に取り扱しましょう。

 地域の中に新しく作り出される"生きものたちの楽園"です★

→観察はとても大切なことですが、むやみに捕まえたり、持ち帰ってしまうのはやめましょう！先生と児童の間で話し合い、責任を持って観察や飼育することが可能であれば、その限りではありません。


 子どもたちが楽しく、安全・安心に多くの生きものと触れ合い学ぶことができる場所です★

→学校ビオトープに"学校"という言葉が入る限り、生きものを守り育むだけではなく、学習や観察の場所としての機能が期待されます。子どもたちが楽しく安全に楽しめる水辺は減っている現状、学校ビオトープは発育・知育に必要な"イキイキ体験"の場となります。


 作ったばかりのときは色々な生きものたちが暮らせる色々な"すみか"が出来ています。しかし、ほうっておいたら単一な環境になってしまい、限られた種類の生きものしか暮らせなくなってしまうかもしれません。

→ビオトープは自然にまかせて放置する場所ではなく、その時々々のビオトープや生きものたちの様子に合わせて、適度に管理する必要があります！


## 『ビオトープを管理しよう！！』

 干上がらないように水を足しましょう！！


ビオトープ池は主に水辺の生きものたちの"すみか"になります。当然、水がなくなってしまうのは困る生きものたちがたくさんいますので、こまめに水位・水量をチェックし、適宜水を足してください。

 池が水草で覆われてきたら間引きしよう！！

池の水面が水生植物や周囲の植物に覆われると、水辺を探して上空を飛んでいる生きものが見つけられず、通り過ぎてしまうかもしれません。また、水草が少ない開けた水辺を好む生きものたちは暮らせません。水面の面積に対して約20%~30%くらい残せば多様な生きものがやってきてくれると思います。

 落ち葉かきをしよう！！

池に落ちた周囲に生えている木々の落ち葉をそのままにしておくと水質や底質（水底の状況）が悪くなり、生きものたちが暮らしにくくなることがあります。そこで秋から冬にかけて落ち葉を網などですくって取り除く必要が出てきますが、池の底にたまった落ち葉には色々な生きものたちが隠れています。一緒に網に入った生きものをレスキューしながら落ち葉を取り除き、落ち葉も少しだけ残してあげましょう。水中の生きもの観察と合わせて実施すると一石二鳥かもしれません。

 ゴミ拾いをしよう！！

ゴミを放っておくと、ビオトープが荒れた雰囲気になってしまい、大切にすする気持ちが薄れてしまうかもしれません。可能であれば掃除当番などでビオトープ掃除が割り当てられると良いと思います。